

2014 年度 関東トレセン U-17 大会

報告者：堀 達也（熊谷女子高等学校）

1.日程

2014 年 2 月 21 日(土)～22 日(日)

2.メンバー

	氏名	所属校		氏名	所属校
監督	堀 達也	熊谷女子	コーチ	長谷川 暁雄	久喜
コーチ	金沢 学	川口総合	コーチ	江口 洋	入間向陽
			トレーナー	本橋 倅晟	
GK	多胡 有季子(2)	山村学園	MF	中野 里香(2)	花咲徳栄
GK	田中 優美(2)	川口総合	MF	大島 彩香(2)	久喜
DF	森田 夏凜(2)	久喜	MF	新田 寿瑞(2)	山村学園
DF	横地 秋音(2)	久喜	MF	久保田 千優(2)	山村学園
DF	國谷 あさひ(2)	久喜	MF	野口 理南(1)	久喜
DF	大屋 絵真(2)	入間向陽	MF	八城 雪月(1)	久喜
DF	儀間 美南(2)	南稜	FW	山室 佑里花(2)	久喜
DF	青山 美里(1)	花咲徳栄	FW	犬竹 麻琴(2)	山村学園
DF	秋山 チエ(1)	浦和西	FW	野本 佳那(2)	南稜
DF	浅倉 あずさ(1)	川口総合	FW	深谷 綾乃(1)	入間向陽



3.事前トレーニング

12月14日(日)	熊谷女子高校 G	選考会①
12月21日(日)	熊谷スポーツ文化公園西多目的広場	選考会② (U-15 と交流試合)
2月15日(日)	花咲徳栄 G	VS 花咲徳栄高校

4.大会結果

月 日	対戦相手		結果・得点者
2月21日(土)	予選①	群馬県	○ 4 - 2 (山室2、野本、大島)
	予選②	栃木県	○ 4 - 0 (山室2、野本、OG)
2月22日(日)	予選③	神奈川県	△ 1 - 1 (野本)
	決勝	東京都	● 0 - 5
※試合時間は予選リーグ 60 分、順位決定戦 70 分			



(VS 群馬県選抜)



(VS 栃木県選抜)



(VS 神奈川県選抜)



(VS 東京都選抜)



(遠征用シャツにて撮影)

5.総評

今回の遠征にあたり、2度の選考会と、1月から開催された新人大会を視察してメンバーをセレクトした。今回のメンバーは新人大会ベスト8以上のチームからの選出となったが、ベスト8以外のチームにも素質やセンスを感じる選手もあり、今後の成長に期待し、次年度行われるU-18トレセン大会での選考にもかかわってきてほしい。

高校女子にもマッチデーが設定されているが、グラウンド確保や既存大会との兼ね合いなどで、うまく活用できておらず、大会前だけの活動となってしまったことは残念であった。今後の反省とし、次年度以降の検討課題としていきたい。

今回のトレセン活動を通して

①他都県の選手たちに自分のプレーがどこまで通用するか（個の能力）

②試合の主導権を握るための、ボールを奪いきる守備の連動

③攻守の切り替えの速さ（攻守の連動・攻守一体型のサッカー）

という点に意識を向けさせた。

新人大会を見る限りでは、埼玉県チームは奪われた瞬間の切り替えが遅く、ファーストディフェンダーが定まらないことが多く、相手に自由を与えてしまっている印象を持った。攻撃の質が高くないため相手の脅威とならず、引いて守ってしまえば相手のミスも出てボールを奪うことが出来ていた。しかし、奪う位置が自陣内であることが多く、また奪った選手が簡単にボールを失ってしまうことも多く見受けられたので、意図的にボールを奪い、奪ったボールを攻撃の一步目と出来るような攻守両面での関わりを持たせたいと考え、上記3点を目的とした。

基本的には、ディフェンスのやり方を説明し、意思統一をした。しかし、リーダーシップをとってコーチング出来る選手が少なく、また前線の選手の動きに後方の選手たちが連動できず（味方の動き出しや体の向きに気付いていない）意図的にボールを奪える場面はあまり多くはなかった。一番の問題点は、コースを限定しているにもかかわらず、タテに入ってくるボールに対してインターセプトが狙えないことや、ディフェンスの甘さ（激しさが足りず、簡単に入れさせてしまう、自由を与えてしまう）にあった。県内大会ではそれで前を向かせても個の能力の高さで抜かれることがないために、それが「当たり前」になっている。さらに、ファーストディフェンダーが簡単にかわされてしまっていてついていくことができなかったり、プレーの連続性がなかったり（同じ選手が2度、3度とプレスをかけ続けられない）が目立った。そのあたりの「日常」の意識を変えていくことの大切さと難しさを感じた。

オフェンス面では、積極的な仕掛けがゴールに結びついている場面が多かったにもかかわらず、消極的なプレーを選択してしまう選手が多かった。ボールを奪われることを極端に怖がりすぎているように感じた。奪われたら、奪い返せばよいという考え方を持てるようになってほしい。また、アタッキングサードでのアイデア不足も感じられた。ドリブルの精度や、スルーパスの精度も低かったが、アタッキングサードで中の様子も確認せずにクロスをあげて、跳ね返されてしまってカウンターを受ける場面が多かった。もう少し「やり直す」「動きなおす」ということを意識させていく必要性を感じた。また、クロスボールやシュートなど、キックの質の低さが目立った。セットプレーのキックはボールが弱く、もっと速くて鋭いボールを蹴れる選手が増えてほしい。

失点においては、ゲーム開始 5 分以内の試合の入り方における気持ちの部分の準備不足の面が大きかった。アップから盛り上げていける選手、声を出せる選手が少なかった。「誰かがやってくれるだろう」という甘えがあったように感じる。チームでは中心となる選手たちの集まりであることを考えると、残念であったが、この点においてはすぐに改善できることであり、今回の遠征で課題点が出た事と前向きに捉え、改善してほしい。

対戦相手に特に印象に残ったチームは東京都で、1 人 1 人のボール扱いの技術の高さはもちろんのこと、複数の選択肢を持たせることのできる関わり、キックの質、1 対 1 の強さは関東では頭一つ以上抜けていた。何より、余裕を持ってプレーが出来ており、サッカーを楽しんでいるように見えた。

しかし、敗れはしたものの、この時期に東京都と対戦できたことは埼玉にとっては大変良いトレーニング（経験）になったのではないかと思う。この経験を財産に、選手たちには東京都のチームに勝てる選手、チームになろうと努力していただければと思う。

6.最後に

メンバーをセレクトして短期間にも関わらず、普段とは違うことに取り組むことに対して、前向きに取り組んでくれたことに大変感謝します。同時に、各個人の今後の活躍を期待してきたいと思います。大きな怪我もなく無事に遠征を行うことができたことは、各所属チーム監督をはじめ、関係者の皆様、保護者の皆様のご協力のおかげです。感謝いたします。特に新入大会終了直後で疲労がある中、そして考査前の時期にもかかわらず、快く選手を派遣していただいたチーム関係者においては深くお礼申し上げます。選手たちがこの遠征の経験をいかし、チームの中心となって活躍し、埼玉県から関東、全国の舞台で活躍してくれることを期待し、トレセン大会の遠征報告とさせていただきます。